

御深井丸側内堀石垣等のレーダー探査について

天守台石垣等の保存方針の策定に向けて、これまでに実施できていない御深井丸側内堀石垣の各種調査を実施する。それに基づき、石垣及び築石の保存・修復の方針を検討する。なお、今年度の天守台周辺石垣の調査・検討の計画は別紙（資料2-4）の通り。

1 目視等による石垣の詳細調査について

（調査目的）

これまで実施してきた外観調査は、現況の把握を目的として行ってきたが、今後の石垣、築石の修復方針の検討という視点から、再度石垣及び築石の状況を目視等により確認する。

（調査内容）

目視等により、石材の破損・劣化状況を把握するとともに、築石間の接点の位置や状況、築石の控え長などの観察を行う。

目視による観察・調査の結果を踏まえ、修復・補修の方針を検討する。

2 石垣等レーダー探査について

（調査目的）

これまで行った外観総合調査の観察や、上記の目視等による石垣の詳細調査の結果を踏まえ、変形・劣化が顕著な部分について、築石の控え長、石垣の背面状況などを確認するため、レーダー探査を実施する。

あわせて、小天守西側「鵜の首」部分の石垣天端、御深井丸側内堀石垣前面等について、地中レーダー探査を実施する。

（調査内容）

石垣面に対しては、外観総合調査により孕み出しなどが確認できた場所を中心に、資料2-2・3のように測線を設定する。なお、測線の位置は、上記の目視による調査等の結果も踏まえ、必要に応じて追加・変更する。

3 今後の進め方

上記2つの調査結果と、これまでの天守台周辺石垣に対する各種の調査を踏まえ、天守台周辺石垣の保存方針を策定する。保存方針策定は、危険性が高い石垣面を優先的に実施して行く。

石垣等レーダー探査について

石垣面等のレーダー探査

(石垣面のレーダー探査)

変形や劣化が顕著な部分が見られる御深井丸側内堀石垣等について、石垣の背面構造や築石石材の控え長等を把握するため、石垣面のレーダー探査(連続測定、控え長測定)を行う。

測線は、これまでに行った外観総合調査において、孕みや被熱がみられる部分に設定したが、今後実施する目視による詳細調査の結果を受けて、変更・追加するものとする。

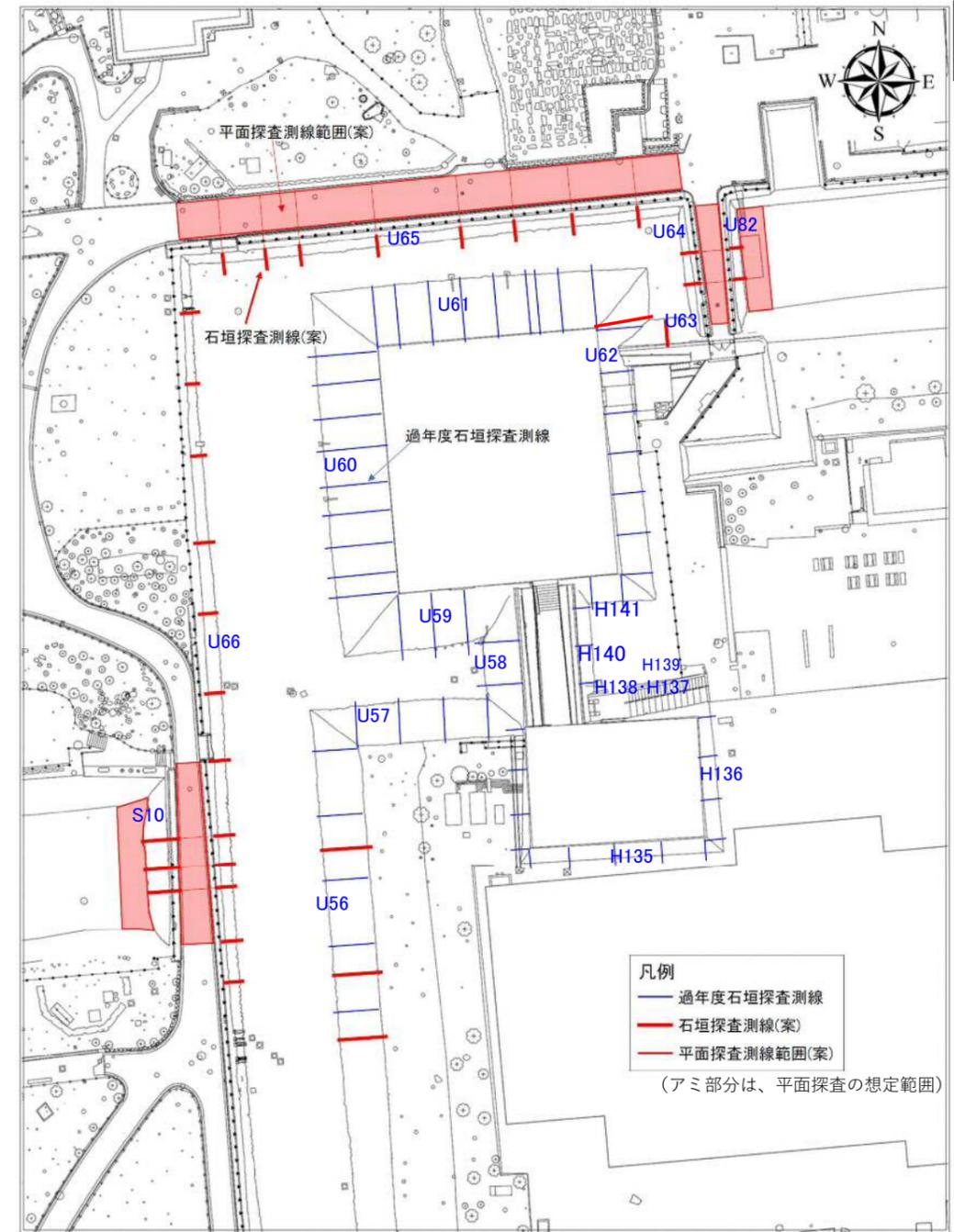
(地中レーダー)

平面レーダー探査は、石垣面の背面の状況を確認する目的で、鵜の首、御深井丸北側道路、土橋にて検討する石垣天端の盛土(植込み)部についても石垣測線近傍にて平面探査を検討する。

測線は、御深井丸側内堀石垣と連続する位置に設定する。

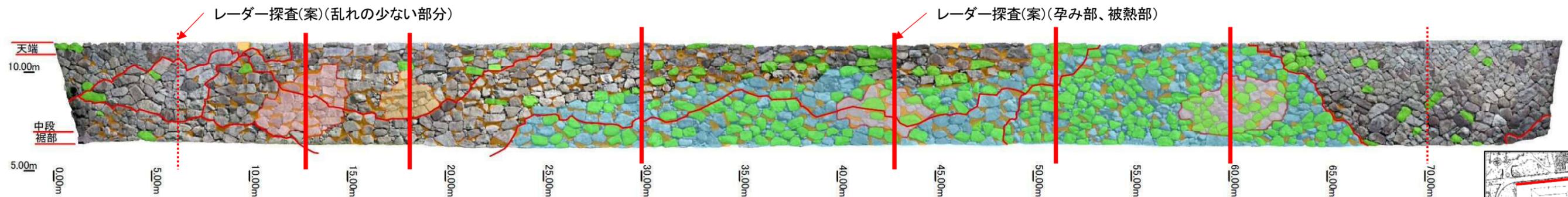
<レーダー探査の測定方法>

- ・石垣面連続測定 [アンテナ]350MHz~400MHz
- ・石垣築石控え長測定 [アンテナ]900MHz
- ・石垣探査用足場は基本を高所作業車とし、ロープ高所(U56、U82、S10等)を併用する。

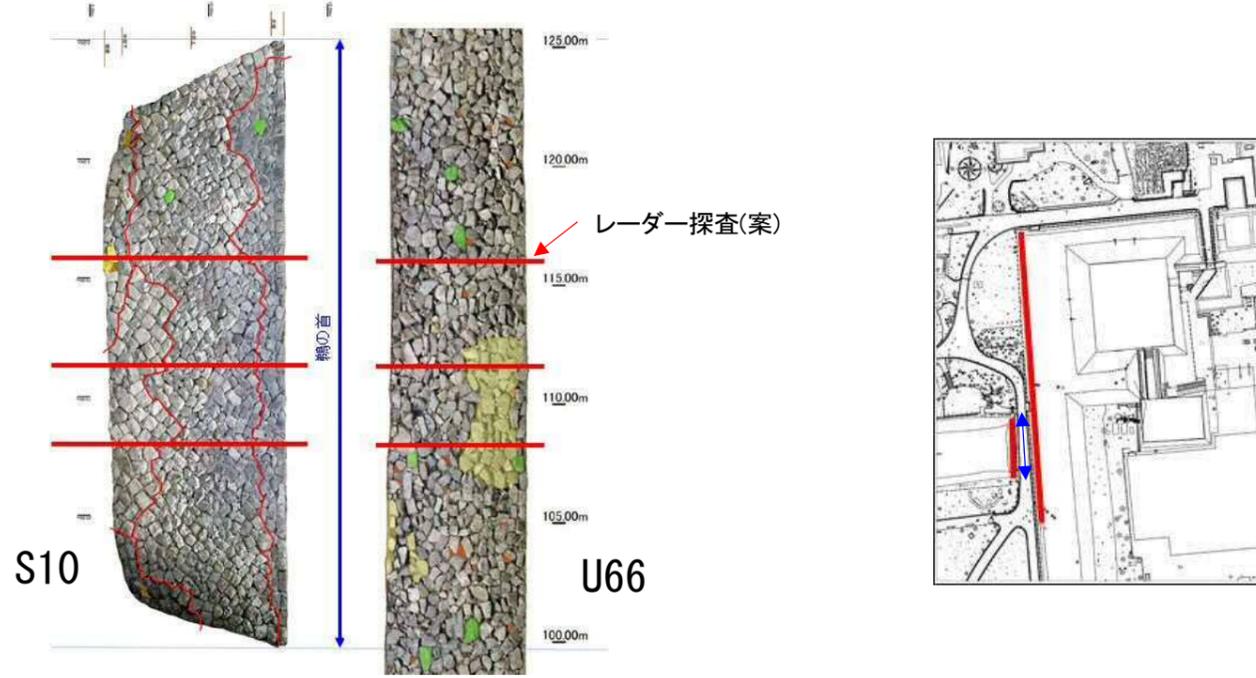


御深井丸側石垣等レーダー探査計画(案)

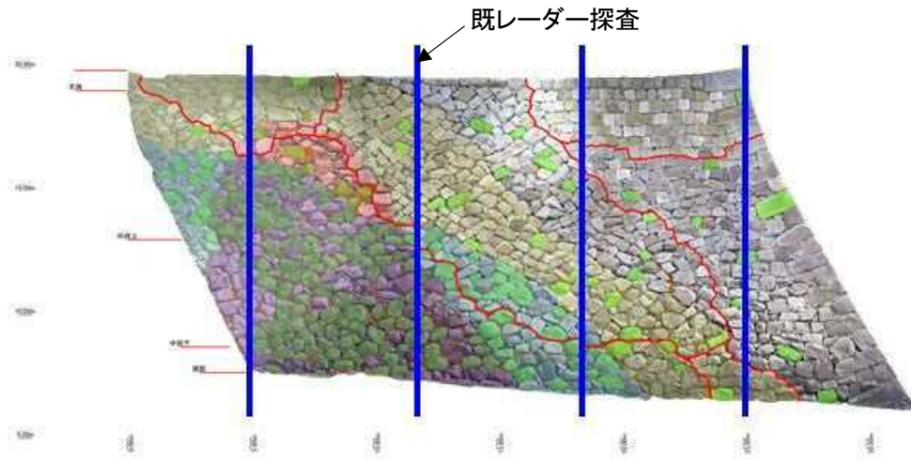
名古屋城天守台周辺石垣外観調査 U65 (標高・特徴区分)



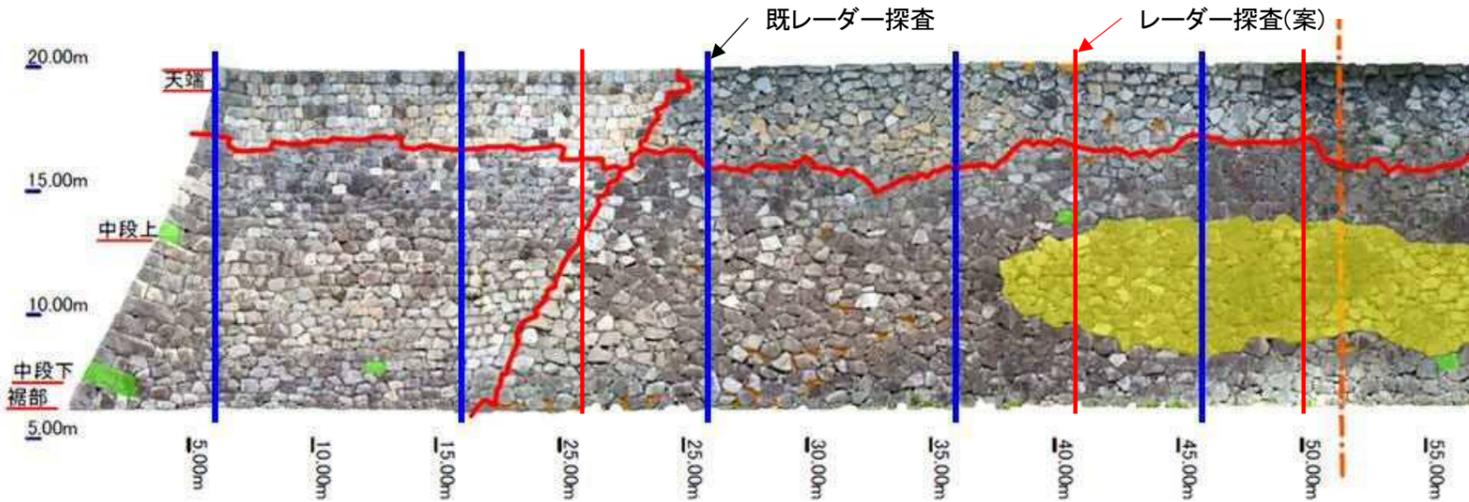
鵜の首部 S10とU66 (標高・特徴区分)



小天守西側部 U57 (標高・特徴区分)



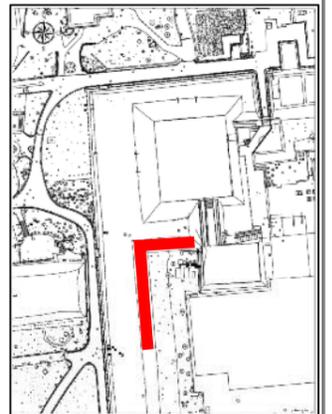
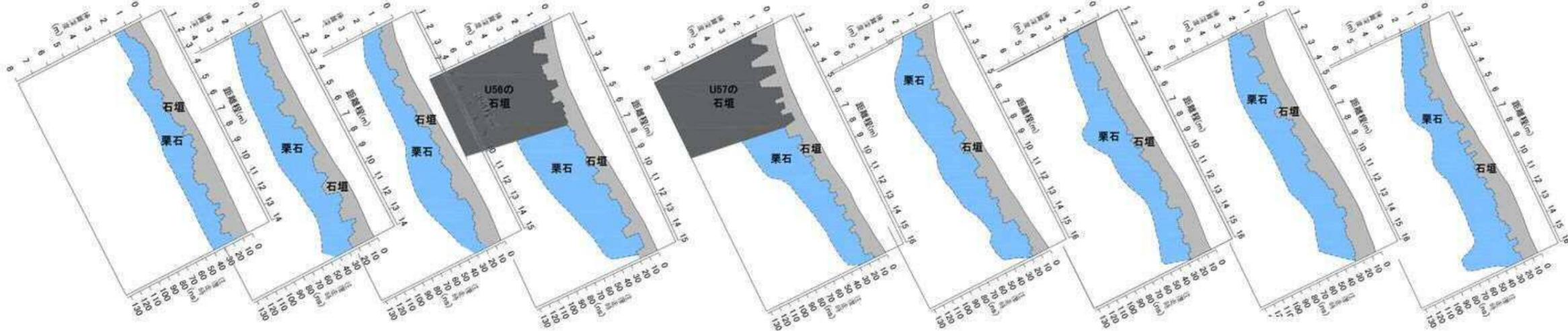
U56 (標高・特徴区分)



青線は実施済み測線、赤線が今回計画分

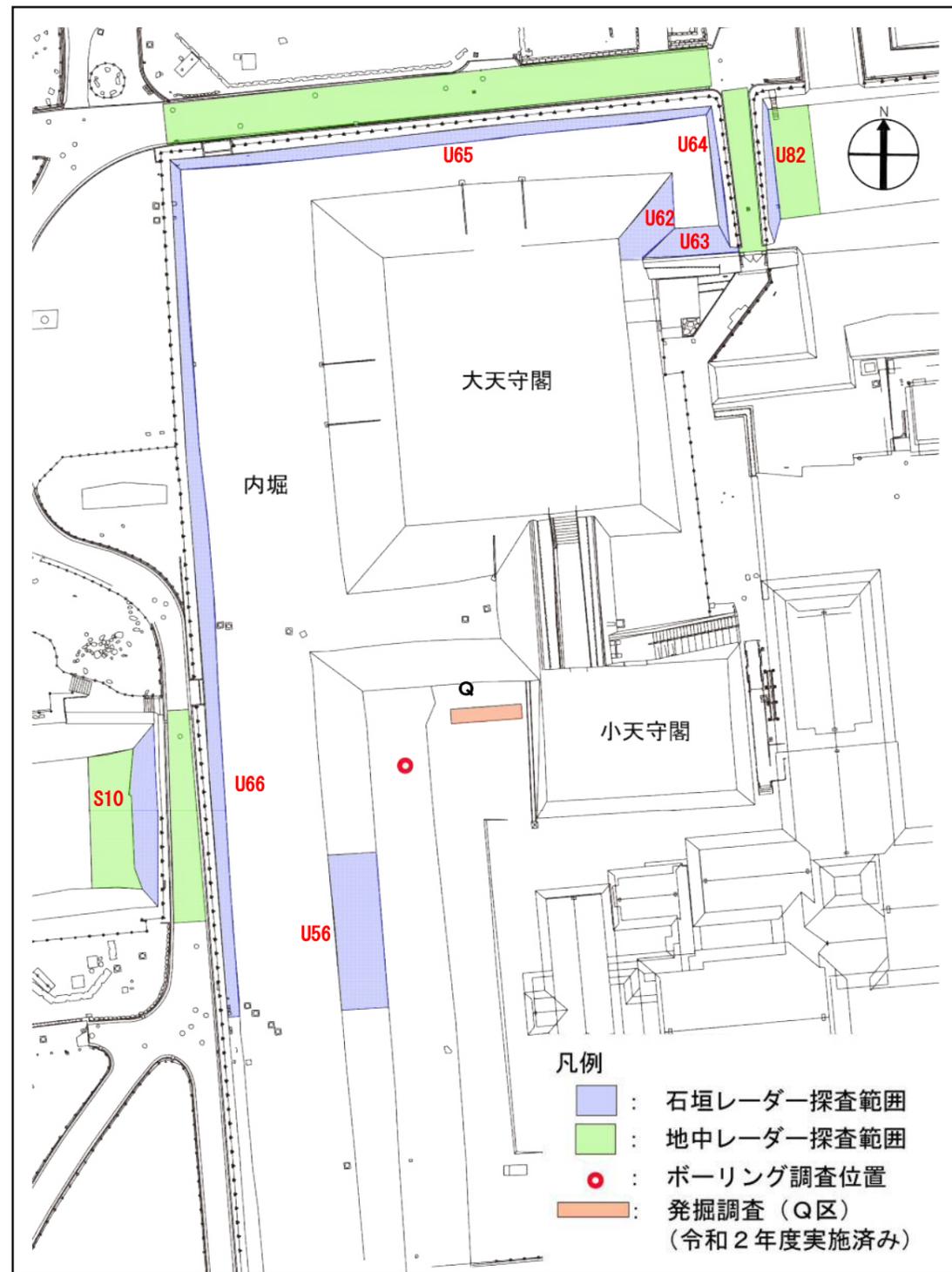
《U57-①測線の測定記録》 《U57-②測線の測定記録》 《U57-③測線の測定記録》 《U57-④測線の測定記録》

《U56-①測線の測定記録》 《U56-②測線の測定記録》 《U56-③測線の測定記録》 《U56-④測線の測定記録》 《U56-⑤測線の測定記録》



御深井丸側内堀石垣等調査予定図

(令和3年度実施予定)



※ボーリング調査及び発掘調査（Q区）により地下遺構面の標高を確認する。

令和3年度に実施する調査・検討の行程表（予定）

区 分	令和3年度												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
① ボーリング調査（小天守西側）及び石垣の保存を確実に図る仮設計画の検討			■										
② 御深井丸側内堀石垣等調査（レーダー探査）及び石垣の保存を確実に図る仮設計画の検討					■								
③ 築石の割れや被熱劣化による剥離対策にかかる詳細調査と検討	■												
④ 石垣保存方針策定	■												

※石垣保存方針策定については、特に危険性が高い箇所を優先的に実施していく。